

平成 22 年 第 1 回 C C C 国際関係学グループ運営委員会 議事概要

日時；平成 22 年 6 月 21 日（月） 16：50～18：45

場所；私立大学情報教育協会 事務局 会議室

参加者；林委員、多賀委員

（事務局）井端事務局長、森下主幹、渡邊職員

I. 検討事項；

1. 学士力教育モデルについて

今年度の委員会活動は、前年度に委員会で作った学士力考察目標を実現するために、学生に国際関係学を理解させるためには、どのような教育が求められているかについて検討し、今後 5 年間提案できる教育改善モデルを 1 年間かけて委員会内で作りあげることとする。

現在行われている教育方法の紹介として以下の内容が提示された。

- ・ 入学から卒業論文までの学士教育で WEB を使ってゼミ内の意見の交流と教員学生間の相互コミュニケーションを行いながらプレゼンテーションと議論（アナログ）による学習教育を行い、他学部のゼミとのアナログによる議論展開も実施している。WEB 上の仮想ゼミで、教員から授業のためのテキスト表示やゼミで発言できない学生のため、各人の発表や意見交換ができるようにしている。またコラボテストでは学生自身が問題をつくって学生同士で解かせる方法をとっているが、この方法については将来的な発展性がある。レジメをつくることで情報を読み取っていく力を学生に身につけさせていきたいと考えている。
- ・ LMS で学生に小テストを行う際、Net 環境があればどこでもアクセスして入力でき、採点迄を行う事ができる。オンデマンドでは、学生からの質問はチューターが対応。講義内容は大人数に配信できる。ゼミでは、ICT は伝達手段として、前もってアサインを送付し、事前に学習しておきレジメが前日までに配布伝達できる。フィードバックシートで相互理解を行う事ができる。90 分授業内説明しきれない内容を補足できる。掲示板では見たかどうか判断できない為、メーリングリストを利用する。上記の環境は学部だけではなくライティングセンター、倫理教育科目が必修科目があり大学全体で対応できる環境が整備されている。今後ゼミから漏れた学生のモチベーションをどうするかという課題解決や、ゼミ毎の専門科目の学士力到達に向けた品質保証を新しく行う動きがある。

以上の事例から学士力到達目標の中での I C T 活用として下記の意見が出た。

- ・ 1 つは学士力到達目標 2－③で参加型の中に取り入れる事が可能。
- ・ 2 つめは、教員だけの一方通行ではなく、ポートフォリオで学生の達成感を持たせる事ができるのではないか。

教育に I C T を使うメリットとしては、

- ・ 学生参加型により個々の理解度による学びを図る事ができる。
- ・ 膨大な量の資料から正しい判断ができるように講義で指導し、学生の自己学習で判断を誤った時にどこかの理論が誤っているか、個々の能力に合わせた振り返りのマッピングできる事にある。
- ・ もう一つの効果は視覚効果にメリットがある。講義内容を視覚的に説明する事で学生の理解度を深める事ができる。

国際的な事象、課題を理解させる為に、将来的に教室をフィールドにして、いながらにして、世界の様々な意見をビデオオンデマンドで取り出せ、3D映像等でディスカッションが行えるようになると興味深い。

⑤次回、上記意見で出た学士力到達に向けた I C T 活用理想モデルを持ち寄る検討する。

2. 情報教育中間まとめに関するサイバーFDからの意見を検討

- ①到達目標 2、3 の意見に関し、適切な表現の訂正を行った。
- ②到達目標 1 に対する意見は学士力の到達目標に入れており、学士力を前提として情報教育をとりまとめたものである為理解頂きたい。

3. 次回委員会；9月27日 月曜 13：30～15：30